



全国ESDコンソーシアム／ステークホルダー円卓会議2025  
2025年2月22日9:30～17:00  
奈良教育大学管理棟大会議室

## ESD-Jの最近の活動について

持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）代表理事  
鈴木克徳

[katsunori0501@jcom.zaq.ne.jp](mailto:katsunori0501@jcom.zaq.ne.jp)

090-4594-9694

# ESD-Jの沿革

- ◆ 2002年ヨハネスブルグサミットでの「国連ESDの10年」提案を政府に提言。その国連での採択に貢献。
- ◆ 2003年「国連ESDの10年」推進のため、「**国連ESDの10年推進会議**」として発足。以後今日に至るまで活動。
- ◆ 2005年インドのアーメダバードでのESDの10年開始式典でNGOによるアーメダバード宣言を採択。アジアの市民社会のネットワーク構築を目指すことを合意。
- ◆ 「国連ESDの10年」を通じてESD関係省庁連絡会議、マルチステークホルダーによるESD円卓会議、ESD議員連盟などを提案し、実現。
- ◆ 2014年の「国連ESDの10年」最終年会合に際し、市民社会からの13の提言を提出。全国規模のESD活動支援センター、ESD推進ネットワークの実現に貢献。
- ◆ 2016～2019年にかけてESD活動支援センターを運営。
- ◆ 2020～2022年度にかけてESD活動支援センターの情報掲載業務を支援。

# ESD推進ネットワーク構築への貢献

詳細:ESD活動支援センターウェブサイト <http://esdcenter.jp/>

## 持続可能な社会を目指して



ESDの広がりと深まりを通じて  
地域の諸課題の解決と教育の質の向上、  
SDGs達成に向けた意識・行動変革を進める

## ESD推進ネットワーク

# 2030年に向けたESD-Jのビジョンと目標

## ビジョン

- 2030年に実現したい社会の姿：あらゆる学びの場でESD実践の質と量が高まっている状態

## 目標

1. 地域におけるESDの実践・実践者・支援者を広げる。
2. 行政、企業等との対話をもとに、政策提言・事業提案を行い、目指すべき方向性を示す。
3. 国内の実践に活かせる国際的な情報発信、国内情報の海外発信と連携促進
4. 会員のニーズにきちんと応えるため組織基盤を強化する。

# ESD-Jの組織体制

役 割	氏 名
代表理事	鈴木克徳
副代表理事	浅井 孝司、池田 満之
組織運営委員	鈴木克徳、浅井 孝司、池田 満之、横田美保
総務・労務・経理担当理事	浅井 孝司、池田 満之
広報担当理事	福井 光彦、松田 直子、新名 阿津子
人材育成事業	池田 満之、小玉 敏也、金澤 裕司、浅野 亮、安田 昌則、松田 剛也、増田 直広
政策提言事業	新海 洋子、浅井 孝司
国際連携事業	鈴木 克徳、三宅 博之、（宇賀神幸恵会員）
地域担当理事	【北海道】金澤 裕司、松田 剛也   【東北】浅野 亮 【関東】増田 直広、小玉 敏也 【東海・北陸】新海 洋子           【近畿】松田 直子 【中国】池田 満之               【四国】新名 阿津子 【九州・沖縄】三宅 博之、安田 昌則
相談役	阿部 治、重 政子
監事	浅見 哲、吉岡 睦子
顧問	池田 香代子、岡島 成行、高木 幹夫

# 2030年に向けたESD-Jの主な活動

## 3本の柱（人材育成、政策提言、国際連携）

### ◆ 人材育成

- 各種研修事業：沖加山ESDコーディネーター研修 等
- オンラインセミナー（独自事業）
- 地域支援プロジェクト：京都市花脊地域等

### ◆ 政策提言

- ◆ ESD推進体制、生物多様性、気候変動 等

### ◆ 国際連携

- ◆ 国際情報発信
- ◆ アジアとの国際連携：アジアのNGOによるESDネットワーク（ANNE）、AGEPP、Gram Nidiプロジェクト、台湾におけるESD推進支援 等

### ◆ その他

- ESD-Jウェブサイト、ニュースレター、SNS等を通じた情報発信
- 高等教育機関によるHESDフォーラム運営支援
- インカレSDGsプロジェクト支援 等

# 2024年度の主な活動

## ●岡山ESDコーディネーター研修

- SDGsを視野に入れた地域づくりのために、グローバルな視野を持ちながら、地域の課題解決に向けた学び合いや、活動の場を企画・実施するとともに、様々な人や団体をつなぐことができる人材（ESDコーディネーター）に必要な考えやスキルを身につける研修

## ●オンラインセミナー

- 第12回世界環境教育会議参加報告
- 責任ある旅行会社アライアンス（JARTA）によるサステナブルツーリズムに向けた活動

## ●地域のESD活動促進に向けた伴走支援

- 京都市花脊地区における自然共生サイトの認定と環境保全・環境教育活動の実施に向けた伴走支援
- 同様な支援を他の地域でも検討中

## ●JARTA等との連携による、インバウンド対策を含む持続可能なツーリズムに向けた研修・人材育成

## ●台湾との交流支援

- 台湾の教員の訪日研修支援
- 台湾の学校と日本の学校との交流に向けたマッチングの支援

## 今後の課題

- ESD活動支援センターや日本ESD学会の設立等、ESD-Jの設立当初と比べてESDに関わる団体が格段に増えている現状を踏まえ、今後ESD-Jが果たすべき役割について再検討する必要性が生じている。